

## 弓道を通して国際交流

函館にある北海道国際交流センター（H I F）では、毎年「日本語・日本文化夏期講座セミナー」を実施しています。対象は海外で日本語を勉強していたり、日本文化に興味をもっている学生です。

今年もハーバード、イェール、プリンストン、UCバークレーなどの大学の非常に優秀な学生が来て、夏の8週間、函館および函館近郊にホームステイしながら、通常の大学での1年間の勉強量にあたる日本語集中講座を受講しています。今年は27回目になりますが、54人の学生達が函館に来ました。彼らのうち40名が6月15日・16日にプログラムの一つとして、遺愛の弓道場で弓道体験をしました。顧問の川嶋先生や遺愛の弓道部員達に教えてもらいながら、一生懸命チャレンジしていたようです。「とても難しい！」といいながら楽しんでいました。学生を引率していた遺愛の卒業生でH I Fの職員の方は、「弓道部の生徒から1対1で基本的な動作や準備の説明・指導を受けつつも、言葉の壁からお互いコミュニケーションを取るのに時間がかかっていたペアもたくさんありました。ただそうした難しさは留学生にとっても弓道部の生徒にとってもよい経験になったのではないのでしょうか。同時に、言葉の壁がすべてではなく、簡単な日本語使いながら順序よく説明をしている弓道部の学生もいて、ペアになっている留学生の日本語はまだ初級レベルですがよく理解しているようでした。結果的に、「矢」「弓」「的」という単語と「弓で矢を射って的に当てる」の一文をマスターし、何回も口ずさんでいたのが印象的です。弓道「体験」といっても身体的な動きだけではなく知識について学ぶことと、留学生に取ってはそれに関係する日本語や表現に触れることを大きな部分だと思います。もちろん弓道部の学生との交流もそのひとつで、授業で日本語の先生から学ぶのとはまた違う日本語学習があるのではないのでしょうか。」と話されていました。遺愛の弓道部員にとっても、とても良い刺激になったようです。



2012年  
6月22日